



# 学生要覧

**2019**

東京電機大学大学院 情報環境学研究科



# 高度専門家を目指してください

学 長 安 田 浩

20世紀後半から今日にかけて、科学技術は目覚ましい発展をし、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、すべての社会活動・産業活動の基盤となってきました。すなわち、知識・情報・技術が、これまでにないほど高い価値を持つ、知識基盤社会になってきました。

このような社会環境のなかで、東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科があり、博士課程（後期）としては、先端科学技術研究科を設置しています。

大学院修士課程は、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を使命とし、高度専門家となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力およびそれに加えて高度で専門的な職業を担うための、卓越した能力を培う課程であります。

博士課程（後期）は、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る、先進的な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で指導的な人材として活躍するための高潔な人格をも涵養する課程であります。

生産・販売を海外に移すという産業界を取り巻く環境変化は、それだけに留まらず、株主、管理運営、製造販売のグローバル化が進み、企業自体が国際企業になってきました。ほとんどの業界での近況を見てもわかる通り、新しい技術への対応、開発製造のサイクルが年々短縮されています。このような環境から、高度専門家には、新しい技術を生み出すため、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るグローバルコミュニケーション能力が、益々要求されてきています。以上述べた観点から、コースワークの充実による実学・実践能力および、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられてきています。

理工系の学部生の約40%が大学院に進学していますが、諸外国と比べて日本の大学院修了者の比率は低くなってきています。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた高度専門家の輩出が期待されています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院での研究を通じて教育を受ける院生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会の複雑な諸問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。

これからの国際化、先端化、総合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識と国際的なコミュニケーション能力を、東京電機大学の大学院で磨かれ、高度専門家になることを期待しています。



# 大学院情報環境学研究科で学ぶ皆さんへ

大学院情報環境学研究科委員長  
柴田 滝也

AIやIoT技術を含む情報環境が発展するとともに実体のある「もの」や実「空間」をベースにしたサービスが情報空間（Cyber Space）に拡張しており、実体あるいは実環境を有しないサービス（グーグル、アマゾン、楽天など）が生じています。今後、実環境と情報空間をつなぐ技術、デザイン、サービスが重要になると思います。そのような社会・時代に大学院情報環境学研究科に入学された皆さんは、従来の情報環境技術や設計手法を俯瞰した上で、自らの力で新しい価値を創造できる能力を身につけ、技術者あるいは設計者などになるべく修士課程2年間の学生生活を送って頂きたいと願います。

情報技術の進展で「個」が尊重される時代の中、夏目漱石の著書「私の個人主義」において、「第一に自己の個性の発展を仕遂げようと思うならば、同時に他人の個性も尊重しなければならない」と述べています。また、哲学者ヘーゲルは「正」（一つの意見・概念）と「反」（その対となる意見・概念）から「合」（新たな意見・概念）を導き出す弁証法を提唱しました。研究においても、他研究者の研究や技術を参照し（＝論文・技術報告書などを読むこと）、他研究者と議論（＝国内外の会議などで発表すること）を行うことによって、新しい知見が得られます。その論文・報告書を書き上げる時間配分は、文献参照をした上での課題・仮説設定に3分の1、その仮説を検証するための実験・分析などに3分の1、そして、口頭・ポスター発表や論文の準備に3分の1であると思います。ぜひ、自分の考えを他者に伝え、意見や批判（否定ではない）を受けるために、理解しやすい口頭・ポスター発表や論文を書き上げる努力をしてください。また、常日頃、研究室のメンバーや教員と議論し、先輩・後輩の研究・設計にも関心を持って意見交換することによって、自分の目指す目標・目的が明確になります。その積み重ねが新しい「智」（技術や概念）を生み出すと信じております。

最後に、「目的」と「手段」の違いは何でしょうか？資格を取得すること、就職することは「目的」でしょうか？両方とも「手段」です。情報環境の技術を用いて人に役立つシステム・サービスを構築したい、住宅を設計し、幸せな生活を送ってもらいたいなどが「目的」です。そのために資格を獲得し、就職するのです。皆さんは、最初は「目的」（目標）を持って入学したかと思います。恐らく、就職活動が始まると、資格を取得すること、就職することが中心になり、「目的」が「手段」に変化します。私も同じことを経験しています。ぜひ、今行っている行為が「目的」に向かっているのか、何のために行っているのかを自問自答してください。

大学院情報環境学研究科は研究・設計などを行う場を提供しますが、主役は皆さんです。「自主・自立」の精神のもと、新たな「智」を生み出し、有意義な学生生活を送ってください。



# 目 次

	ページ
第1章 建学の精神、教育・研究理念等 .....	1
建学の精神、教育・研究理念等 .....	3
第2章 学修活動 .....	5
大学院情報環境学研究科で学ぶ学生諸君へ .....	7
情報環境学専攻 部門の概要について .....	11
授業科目 .....	13
授業 .....	14
履修申告 .....	18
履修及び単位認定 .....	19
試験及び成績評価 .....	21
修士課程の修了要件 .....	23
学位 .....	26
大学院情報環境学研究科 研究スケジュール .....	27
留学・海外語学研修 .....	28
教職課程 .....	30
一級建築士受験資格の実務経験について .....	31
副手制度 .....	32
第3章 教員一覧・授業科目配当表 .....	33
教員一覧 .....	35
情報環境学専攻 専門基礎科目・研究科目配当表 .....	37
情報環境学専攻 専門科目配当表 .....	38
第4章 学生生活 .....	39
学籍について .....	41
学生証 .....	42
学費 .....	44
奨学金制度 .....	45
車両通学の注意事項 .....	47
留意事項 .....	48
遵守事項 .....	49
願出・届出 .....	51
学生食堂と売店 .....	52
健康管理 .....	53
保険制度 .....	55
短期貸付金 .....	57
アパート等の紹介 .....	57
アルバイト .....	58

遺失物・拾得物	60
校友会	60
東京電機大学シーサート (TDU-CSIRT)	62
STOP ! HARASSMENT	64
<b>第5章 事務取扱</b>	<b>67</b>
大学から学生への連絡・通知	69
事務取扱事項と取扱時間	71
<b>第6章 総合メディアセンター利用案内</b>	<b>75</b>
総合メディアセンター	77
<b>第7章 就職</b>	<b>87</b>
就職	89
<b>第8章 キャンパス配置図</b>	<b>91</b>
東京千住キャンパス施設案内	93
東京千住キャンパス配置図	94
東京千住キャンパスフロア配置図	95
<b>第9章 学則及び諸規程</b>	<b>105</b>
東京電機大学大学院学則	107
東京電機大学大学院情報環境学研究科規則	122
東京電機大学学位規程	124
学生生活についての規程	131
東京電機大学学生救済奨学金貸与規程	134
東京電機大学学生支援奨学金貸与規程	136
東京電機大学大学院奨学金貸与規程	138
東京電機大学情報システム利用者パスワードガイドライン	140
東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン	144
<b>第10章 組織・沿革</b>	<b>147</b>
沿革	149
大学の教育・研究組織	153
研究科・専攻の英文名称	153
大学院情報環境学研究科の教員組織	154
<b>第11章 その他</b>	<b>157</b>
東京電機大学校歌	159
大学キャンパス所在地	160

# 2019 学生要覧

index



第1章 建学の精神、教育・研究理念等

第2章 学修活動

第3章 教員一覧・授業科目配当表

第4章 学生生活

第5章 事務取扱

第6章 総合メディアセンター利用案内

第7章 就職

第8章 キャンパス配置図

第9章 学則及び諸規程

第10章 組織・沿革

第11章 その他



# 2019 学生要覧

## 第1章

建学の精神、  
教育・研究理念等



## 建学の精神、教育・研究理念等

### ○本学の建学の精神

#### 「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

### ○本学の教育・研究理念

#### 「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

### ○本研究科の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的

情報環境学研究科は、自主・自立の精神と国際化対応力、創造力豊かで独創性を兼ね備えた人材を養成するという情報環境学部の理念を継承しつつ、情報環境という学問分野の観点から、高度な情報技術に関する専門知識を修得し、研究能力を育成する。また、本研究科は、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21世紀に活躍できる情報に関する高度専門技術者を養成する。

### ○情報環境学専攻における人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

情報環境学専攻は、「技術は人なり」の教育理念のもと、「人に優しく、信頼性のある、安全で快適な情報環境とは」を常に念頭におき、高度な情報技術に関する専門知識を修得させることを目的とする。また、産業界から期待されている「研究開発に必要な発想力」「問題発見・解決能力」「情報収集・解析能力」「プレゼンテーション能力」「コミュニケーション能力」を持った21世紀に活躍できる情報に関する高度専門技術者を養成する。

### ○本研究科の入学者受入の方針

(1) 自主・自立の精神と創造力・独創性を兼ね備え、国際社会で活躍できる人材を育成する理念のもとに、高度な情報技術に関する専門知識を基盤とした研究能力・技術力を備える学生を育成する。

(2) 社会から期待される、「独創性豊かな研究能力」「産業上の有効性が重要な技術開発力」「幅広い技術・知識を必要とする調査・企画能力」を修得し、社会で研究・開発リーダーとして活躍できる人材を育成する。

上記の目的に沿うべく、幅広く深い学識の涵養を図り、高度な専門能力の修得に積極的に取り組む意欲のある学生を受け入れます。

### ○本研究科の学位授与の方針

本研究科に2年以上在学し所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格して以下の能力を身につけたと判断された者に修士（情報環境学）の学位を授与します。

(DP1) 高度な専門科学技術を身につけることにより、基礎科学および工学等の応用分野での課題解決能力を持つこと。

(DP2) 専門分野の基礎学力、英語表現能力を備え、結果を論文にまとめ、国内外の会議で発表できる能力を身につけること。

(DP3) 自身の専門分野に限定せず、広い視野に立って、高い次元から課題解決ができる能力を備えること。

### ○本研究科の教育課程編成・実施の方針

本研究科の教育理念に基づく特色ある教育を実施するため、以下の方針により教育課程を編成し、実施します。

(1) 情報科学、情報工学および医療工学等の分野において、専門的知識や論理的思考力を高めるための科目を体系的に配置する。

(2) 急速に進展する科学技術と、多様化する国際的な価値観にも柔軟に対応できる、国際性豊かな学生の育成を行う。

(3) 広い国際的な視野の下で、他分野の学問領域と横断的に連携を進めるための研究課題を設定し、教育・研究に活用する。

### ○本研究科の研究指導体制

(1) 指導教員による指導の徹底に加え、多角的な視野に立った指導を行うため、修士1年次より直接指導する教員に加え、副査を1名充当する。

副査教員は、担当する学生の研究指導面談を行う。

(2) 修士1年次・2年次とも、その修了前に公開の中間発表を実施し、研究指導の強化を行う。

(3) 修士2年次の修了前には、著名な国内外の学会等における論文発表の指導を実施する。

# 2019 学生要覧

## 第2章

学修活動



## 大学院情報環境学研究科で学ぶ学生諸君へ

### 研究科の方針とねらい

近年のネットワークの普及によって、人々は、時間、場所、地域、あるいは実在的な相手などを意識することなく、グローバルでボーダレスな状況下で、コンピュータあるいは情報システムと関わるようになってきました。このような状況を、われわれは「情報環境」と捉え、これを学問として探究しようとするのが「情報環境学」です。「情報環境学」の学術的基本コンセプトは、「情報環境の基盤整備と資源活用的高度化」と、情報環境に存在する各種の情報資源を統合し、新しい学際的学術分野を創成する「情報環境統合」の二本柱に集約することができます。

本研究科は基礎となる情報環境学部の学科統合に合わせ、平成21年4月からはより高度で専門的な教育・研究を行うことを目的として、2つの専攻を統合した「情報環境学専攻」を設置いたしました。情報環境学科と情報環境学専攻との教育・研究の関係を各々P.9の図1に示します。

本研究科においては、情報環境学部の教育・研究方針を発展させ、①実学尊重、②情報環境学に関する高度な専門知識の修得、③独創性・創造性の育成、④グローバル性の重視、⑤起業家マインドに富んだ問題の発見とその解決能力の醸成、⑥学際性の重視、⑦社会環境に優しい人材の養成、を基本方針とします。これらの方針を大きく、(1) 国際的な技術者としての基礎能力の育成、(2) 高度な専門知識の修得、(3) 研究能力・独創性・起業家マインドの醸成とに分けて、そのねらいを以下に説明します。

#### (1) 国際的な技術者としての基礎能力の育成

技術は本質的にグローバルなものですから、技術者・研究者自身が国際的な場で活動する機会(例、国際学会や国際標準化委員会等での提案や議論)は、我が国が先導的な立場にある限りますます増え、国際的な言語である英語による表現の力が重要になります。また情報環境学においても、他の工学分野と同様、数理的思考能力は必須です。さらに、技術のグローバル化およびボーダレス化にともない、知的財産に関する問題が多発しており、技術者・研究者には自分の知的財産を守るための法的知識と、他者の権利を侵害しないという規範が必要です。

これらは、諸君が国際的な技術者・研究者として活躍していく上で基礎能力として備えなければならないもので、情報環境学専攻では、図1「情報環境学専攻の基礎となる学科との教育・研究関係図」における「専門基礎科目」として学びます。

## (2) 高度な専門知識の習得

図1に示すように、情報環境学専攻は教育システム工学、情報ネットワーク工学、知能情報工学、マルチメディア工学、医用福祉工学、空間デザイン、コミュニケーション工学、情報科学の8部門を柱に、厳選された専攻固有専門科目の履修を通して高度な専門知識の習得を図ります。

## (3) 独創性・創造性・起業家マインドの醸成

これからは、技術者自身が開発した技術をもとにしたビジネス創成の機会が多くなることが予想されます。そのような創造力のある技術者を養成するための演習として、自ら設定した課題、企業あるいは教員から与えられた課題について、創造性に富んだ解決策を考案し、それを実際に試作して、その実用性を評価するプロジェクト科目が用意されています。図1の情報環境学研究科目に位置付けられる本プロジェクト科目は、学術的体系化に重点を置いた特別研究（修士研究論文）と修士課程の修了のための選択必修科目であり、最も重視されます。

以上、本研究科の基本方針とねらいについて説明しましたが、将来どの分野に進もうとも大切なことは、基礎学力と自分で考え展開していく力を身につけることです。研究科での専門科目は高度で適用領域が限られたものが多く、これらの履修には学部で学んだ基礎知識が前提となります。それが不足し理解しにくいときは、学部の基礎科目をためらうことなく復習して下さい。

また、受講し始めた講義科目やプロジェクト科目などは、理解しにくかったり、展開に行き詰まったりすることがあるかと思いますが、決してあきらめたり、逃げ出したりしてはいけません。むしろ積極果敢にチャレンジすれば、思い悩んでいたより容易に乗り越えられ、そして大きな自信へと変わっていくものです。こうした姿勢は、大学院だけでなく、卒業後の一般社会でも重要なことで、常に心がけてもらいたいと思います。

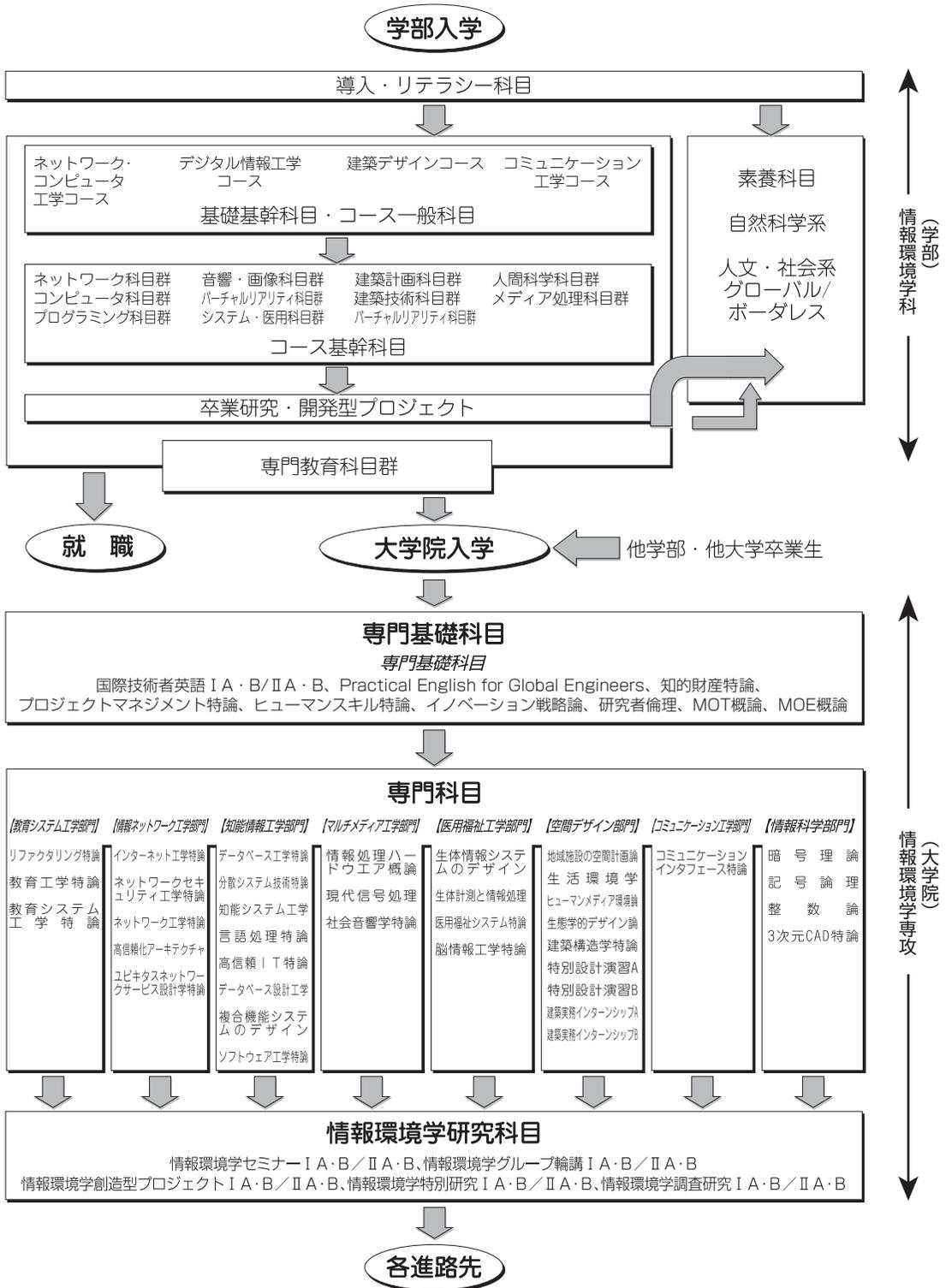


図1 情報環境学専攻の基礎となる学科との教育・研究関係図

		1年		2年	
		前学期	後学期	前学期	後学期
専門性の涵養	共通	情報環境学特別研究ⅠA／情報環境学創造型プロジェクトⅠA／情報環境学調査研究ⅠA、情報環境学セミナーⅠA／情報環境学グループ輪講ⅠA	情報環境学特別研究ⅠB／情報環境学創造型プロジェクトⅠB／情報環境学調査研究ⅠB、情報環境学セミナーⅠB／情報環境学グループ輪講ⅠB	情報環境学特別研究ⅡA／情報環境学創造型プロジェクトⅡA／情報環境学調査研究ⅡA、情報環境学セミナーⅡA／情報環境学グループ輪講ⅡA	情報環境学特別研究ⅡB／情報環境学創造型プロジェクトⅡB／情報環境学調査研究ⅡB、情報環境学セミナーⅡB／情報環境学グループ輪講ⅡB
	教育システム工学	リファクタリング特論、教育工学特論、教育システム工学特論			
	情報ネットワーク工学	インターネット工学特論、ネットワークセキュリティ工学特論、ネットワーク工学特論、高信頼化アーキテクチャ、ユビキタスネットワークサービス設計学特論			
	知能情報工学	データベース工学特論、分散システム技術特論、知能システム工学、言語処理特論、高信頼IT特論、データベース設計工学、複合機能システムのデザイン、ソフトウェア工学特論			
	マルチメディア工学	情報処理ハードウェア概論、現代信号処理、社会音響学特論			
	医用福祉工学	生体情報システムのデザイン、生体計測と情報処理、医用福祉システム特論、脳情報工学特論			
	空間デザイン	地域施設の空間計画論、生活環境学、ヒューマンメディア環境論、生態学的デザイン論、建築構造学特論、特別設計演習A／B			
	コミュニケーション工学	コミュニケーションインタフェース特論			
	情報科学	暗号理論、記号論理、整数論、3次元CAD特論			
学際性の涵養	知的財産特論、プロジェクトマネジメント特論、ヒューマンスキル特論、イノベーション戦略論、研究者倫理、MOT概論、MOE概論				
国際性の涵養	国際技術者英語ⅠA	Practical English for Global Engineers 国際技術者英語ⅠB	国際技術者英語ⅡA	国際技術者英語ⅡB	
キャリア形成	建築実務インターンシップA／B				

図2 情報環境学専攻のカリキュラムマップ

## 情報環境学専攻 部門の概要について

### 教育システム工学部門：

センサ技術、ネットワーク技術およびソフトウェア技術を基盤として、高い学習効果を上げられる理想的な教育システムに関わる研究・教育を行う。さらに、教授者と学習者にとっても心理学的・生理学的に好ましい自然なヒューマンインタフェースの研究を行う。この研究分野では、ヒューマンインタフェースを含めた、将来の教育分野の最先端技術を効果的に活用することが必須であり、特に教育コンテンツを含む実践的なシステムの構築法・分析手法を修得する。

### 情報ネットワーク工学部門：

IP技術を中心としたネットワーク設計上の理論的な基礎や応用技術を修得し、次世代ブロードバンド技術、ユビキタスネットワーク技術を支えるネットワーク基盤の研究・教育を行う。具体的にはアドホック・センサーネットワーク、可視光通信等の実験環境を活用して、ネットワークを安心・安全に利用するための高信頼化技術、ネットワークセキュリティ技術、高速化アーキテクチャ技術に関わる高度な専門技術を修得する。

### 知能情報工学部門：

近未来の高度知能化社会を実現するため、知能情報に関する技術の基礎から最新技術にいたるまでの研究・教育を行う。自らが知能情報システムを構築できる技術までの幅広い専門分野、具体的には人工知能技術、情報システム技術、データベース技術、分散システム技術、高信頼IT技術、ソフトウェア技術に関する高度な専門知識と研究能力を、最先端技術を結集した研究・教育環境の下で修得する。

### マルチメディア工学部門：

人が安心し、便利で快適に暮らすために有用となる機器やシステムを設計・開発するための専門技術の研究・教育を行う。具体的にはデジタル信号処理技術を基盤にして、音声・音響・画像・ヒューマンインタフェースなど、人と機器とを相互に信頼できる快適な状態で接続するために必要なソフトウェア技術とハードウェア技術の双方を研究対象とした研究指導を実践し、マルチメディアの発展に貢献する高度な専門技術を修得する。

### 医用福祉工学部門：

生体情報計測・処理技術を基盤にして、脳機能、生体信号解析法、高齢者や乳幼児の工学的支援などの研究・教育を行う。具体的には総合研究所千葉共同利用施設内の高度な研究設

備を利用した研究活動を通じて、脳科学、生体医工学、人間工学、福祉工学などに関し、医用工学の技術者に必須となる基盤技術を修得する。さらに、情報工学一般の技術者にも有効に活用できる専門知識と方法論を修得する。

#### 空間デザイン部門：

高度に情報化され、しかも少子高齢化社会を迎えた私たちの生活空間を、いかに豊かで快適なものにデザインするかの研究・教育を行う。そのため、地域施設計画学をはじめ、生活環境学、生態学的心理学、ヒューマンメディア環境学等の思想や理念を学ぶとともに、創造的なアイデアを創出するオープンコンペに参画し、実践的な専門技術を修得する。

#### コミュニケーション工学部門：

複雑で高度な情報社会においてこそ密なコミュニケーションが重要となる。本部門では、人と人、人と機械の間の快適なコミュニケーションを実現するため、インタフェース工学、メディア工学、認知心理、社会心理など工学と人間科学の両方の学問の研究・教育を行う。特に、人間中心の考え方のもと未来の社会を支える視野の広いエンジニアを育成するための高度な専門技術を修得する。

#### 情報科学部門：

情報技術に理論的な基礎を与える本質的で重要な概念の修得を目的とし、様々な問題への数学的アプローチを中心とした研究・教育を行う。具体的にはセキュリティや通信の品質を保証する符号理論の基礎となる代数学、特に公開鍵暗号系の基礎となる整数論、人工知能における形式化された推論を扱う数理論理学に加え、3次元CADや図形プログラミングの応用技術を修得する。

以 上

## 授 業 科 目

### 1 授業科目

本研究科で開講される授業科目は、第3章の科目配当表のとおりです。個々の科目間の関係や科目内容の詳細については、シラバスを参照してください。

科目配当表には①授業科目、②単位数、③配当期（開講年度、前学期、後学期、通年）、④担当教員名、などが記載されています。隔年で開講される科目があるので、履修申告にあたっては注意してください。

### 2 修了必要科目

授業科目は選択科目および選択必修科目から構成されます。特に、選択必修科目として配当している情報環境学創造型プロジェクト、情報環境学特別研究、情報環境学調査研究のうち、どれかを（例えば、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB）を履修する必要があります。どの科目を履修するかについては、研究指導教員と相談の上、決定してください。場合によっては、混在して（例えば、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠBと情報環境学特別研究ⅡA・ⅡB）履修することもできます。また、研究成果としての知的財産権の保護が求められますので、情報環境学創造型プロジェクトⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBの履修者は、知的財産特論の履修を推奨します。

### 3 配当期

#### ①前学期

4月1日から8月31日までを前学期とし、前学期期間中に14週にわたって授業が行われる科目を前学期科目といたします。

#### ②後学期

9月1日から翌年3月31日までを後学期とし、後学期期間中に14週にわたって授業が行われる科目を後学期科目といたします。

# 授 業

授業などの年間スケジュールは、学生ポータルサイト（UNIPA）を参照してください。変更などの通知はすべて学生ポータルサイト（UNIPA）で行うので、必ず確認してください。

## 1 授業時間

本研究科の授業時間は、2018年度より、100分となります。各時限の開始・終了時刻は、右表の「大学院」の時程のとおりとなります。なお、D 5 時限・D 6 時限の授業開始・終了のチャイムは鳴りません（工学部第二部の授業に合わせたチャイムが鳴りますが、本研究科の授業には関係ありません）ので、注意してください。

また、本研究科では「昼夜開講制」と呼ぶ制度を設けています。これは昼間の授業時間帯のほかに、夜間の授業時間帯（右表のD 5、D 6 時限目）にも昼間と同様の授業を開講し、夜間（ときには昼間）に講義を受講することによって大学院を修了することを可能とする制度です。これは近年の経済社会の発展や技術革新の進展等により、大学院に対する社会の要請が多様化しており、この要請に応えるものです。



## 2 休講

- (1) 授業担当教員の止むを得ない事情により授業が休講になる場合は、基本的には前日までに担当教員から連絡、または学生ポータルサイト（UNIPA）等で周知します。
- (2) 学校行事を行う場合の休講は、学生ポータルサイト（UNIPA）等で周知します。（年間行事日程参照）

## 3 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおりに対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。この授業措置については、大学発表の情報を大学ホームページ及び学生ポータルサイト（UNIPA）にて周知します。

また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので注意してください。

### (1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏JR各線及び東京千住キャンパス最寄り駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1. 午前6時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
  2. 午前6時において運休の場合は、第1・2時限目の授業は休講となります。
  3. 午前9時において運休の場合は、第3・4時限目の授業は休講となります。
  4. 午後3時において運休の場合は、第D5・D6時限目の授業は休講となります。
- ※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

### (2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京23区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1. 午前6時において暴風警報が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
2. 午前6時において暴風警報が発令されている場合は、第1・2時限目の授業は休講となります。
3. 午前9時において暴風警報が発令されている場合は、第3・4時限目の授業は休講となります。
4. 午後3時において暴風警報が発令されている場合は、第D5・D6時限目の授業は休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内

放送、大学ホームページ及び学生ポータルサイト（UNIPA）で授業措置の情報を発信します。

- (3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。その場合には、直ちに大学ホームページ及び学生ポータルサイト（UNIPA）へ掲載するので、各自確認してください。

#### **4 補講**

補講授業を行う場合は、担当教員や学生ポータルサイト（UNIPA）により指示があります。

#### **5 集中講義**

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。この場合は授業時間割表もしくは学生ポータルサイト（UNIPA）により周知します。

#### **6 特別講義**

通常の授業とは別に、学外等から講師を招いて特別なテーマについて臨時に講義を行うことがあります。この場合は学生ポータルサイト（UNIPA）により周知します。

#### **7 授業への出席**

履修する科目の授業には毎回出席することが必要です。本研究科における多くの授業は、積み重ねにより目標を達成するように構成されていますから、安易に授業を欠席することは、履修の目的に反することになります。就職活動・学会発表などやむを得ない理由で授業を欠席しなければならない場合には、担当教員へ欠席届を提出するとともに、クラスメイト等により欠席した授業内容を早めに補完しなくてはなりません。

#### **8 再履修**

履修した授業科目の単位を修得できず、もう一度その科目の履修をやり直すことを「再履修」といいます。再履修科目の履修申告・受講等については、新規履修の場合と同様です。

## 履修申告

1. 授業科目を履修するには、必ず履修申告をしなければなりません。履修していない科目を受講しても単位は認定されません。
2. 履修申告に当たっては、指導教員の指導を受け、履修する科目を選定し、指導教員の承認を得てください。
3. 大学院情報環境学研究科開講科目の履修申告は、原則として、所定の期間内に、学生ポータルサイト（DENDA I - U N I P A）上で行います。学生ポータルサイトの取り扱いは、69ページを参照してください。  
他研究科科目等、大学院情報環境学研究科以外の開講科目については、所定の期間内に所定用紙での履修申告が必要です。